

キャリア教育だより



群馬県立あさひ特別支援学校

発行：進路支援部

2025.11.4 号外⑨

8日に「あさひ学習発表会」を開催します。保護者以外にも、放課後等デイサービスや相談支援で関わっている方、就業体験・体験学習先の方など、多くのお客様が見えます。児童生徒の皆さんのが学習の成果を存分に發揮できるよう願っています。『自分の役割を果たし、仲間と協力して何かを成し遂げること』、それは、まさにキャリア教育の一つでもあります。



号外⑨では、保護者の方からの御相談（質問）で皆様に共通すること等について御紹介します。



うちの子はまだ中学生（小学生）です。高等部卒業後の進路を考え悩んでいます。今から施設見学を始めた方がよいのでしょうか？また、どんな所を見学したらよいのかわからないので教えてください。

お子様がまだ中学生（または小学生）の段階で、高等部卒業後の進路を考え始めるのは、とても素晴らしいことです。時間があるからこそ、焦らず着実に情報収集を進められます。お子様の個性や特性を踏まえ、「将来、どんな生活を送るのか」というイメージを膨らませながら、御自身の目で見て、施設職員の話を聞くとよいと思います。

「どんな所を見学したらよいか分からない」という保護者の方のために、まずは大きく二つの方向性と、情報収集の機会を御紹介します。

見学先の大きな方向性：①「就労系」と②「生活系」



高等部卒業後の主な進路は、大きく分けて「就労系」と「生活系」に分かれます。この二つの分野でどのような施設（事業所）があるのか、情報収集から始めるとよいでしょう。

分野	目的	主な施設の種類（例）
① 就労系	働くことを目的とする場所	就労移行、就労継続支援（A型・B型）、一般事業所など
② 生活系	生活支援や創作活動などを目的とする場所	生活介護、自立訓練（機能訓練・生活訓練）など

※就労継続支援B型や生活介護などは、本校卒業生も多く利用する施設です。まずはこのあたりから見学を始めてみるのもよいでしょう。

学校やPTA主催の情報収集の機会をうまく活用

学校やPTAが提供する機会をうまく活用すると、効率的に情報を得ることができます。



- ① PTA 研修部による施設見学: 今年度は生活介護とB型の2か所を訪問する機会がありました。こうした学校を通じた見学は、卒業後の様子を知る貴重な機会です。また、一人ではなく、多くの視点で見ることで、自分だけでは気付くことができない点も認識できるかもしれません。他の参加者からの質問などから理解がより深まるることも期待できます。
- ② 進路ガイダンス(例年11月頃): 毎年11月頃には、「就労系」に特化した「進路ガイダンス」を開催しています。職業観・勤労観に関する意識を高め、社会自立に向けた気持ちを醸成するために開催する県の事業です。希望があれば、保護者の参加も可能としています。今年度の講師は、就労移行・B型の施設長、年によっては、特例子会社の方に依頼することもあります。
- ③ キャリア教育だより: 施設情報や高等部生の体験先などを紹介しています。参考にしていただければ幸いです。「進路の手引き」(学校Webページから閲覧可能)や、「障害者福祉制度のごあんない(群馬県)」(9月に配付した冊子、もしくは群馬県のWebページから閲覧可能)などなど、情報源は多くありますので、ぜひ御覧ください。

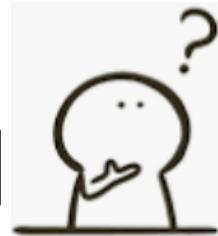
個人的な見学も可能

もちろん、御自身の関心に基づき、個人的に見学をしたいという方も、歓迎いたします。ほとんどの施設は「見学ウェルカム」ですので、ぜひ積極的に足を運んでみてもよいと思います。

まとめ: 早くても「焦らず」着実に

中学生(小学生)という早い段階から準備を始めるに越したことはありませんが、焦る必要はありません。お子さまの成長を見守りながら、少しずつ情報を集め、親子で「卒業後の姿」をイメージする時間を大切にしてください。

そもそも、高等部(高校)には、進学しなければならないのでしょうか?



高等部への進学は、義務教育ではありませんので、必ず進学しなければならないわけではありません。しかし、多くの生徒が次のステップとして進学しています。

特別支援学校高等部は、中学部まで身につけた力をさらに伸ばし、卒業後の自立(就職や福祉サービス利用を含む生活)に向けた準備をすることなどを、目的としています。

特に、ほとんどの特別支援学校高等部では、2年次以降に、就業体験や体験学習を実施し、卒業後の進路について検討する機会が多くあります。

進学の場合、本校高等部だけでなく、他校高等部もあります。また、通常の高等学校もあります。学校見学会や体験会等に参加して、将来像をイメージしながら、自分に合う高等部や高校を検討してほしいと思います。

もしも進学しない場合でも、家庭以外の、日中活動の場をもつことを検討してほしい思います。何らかのサービスをうまく使って日中活動を充実させることで、家族以外の人から良い刺激を受け、それが成長につながると考えられます。また、家族の負担を軽減することにもなります。

